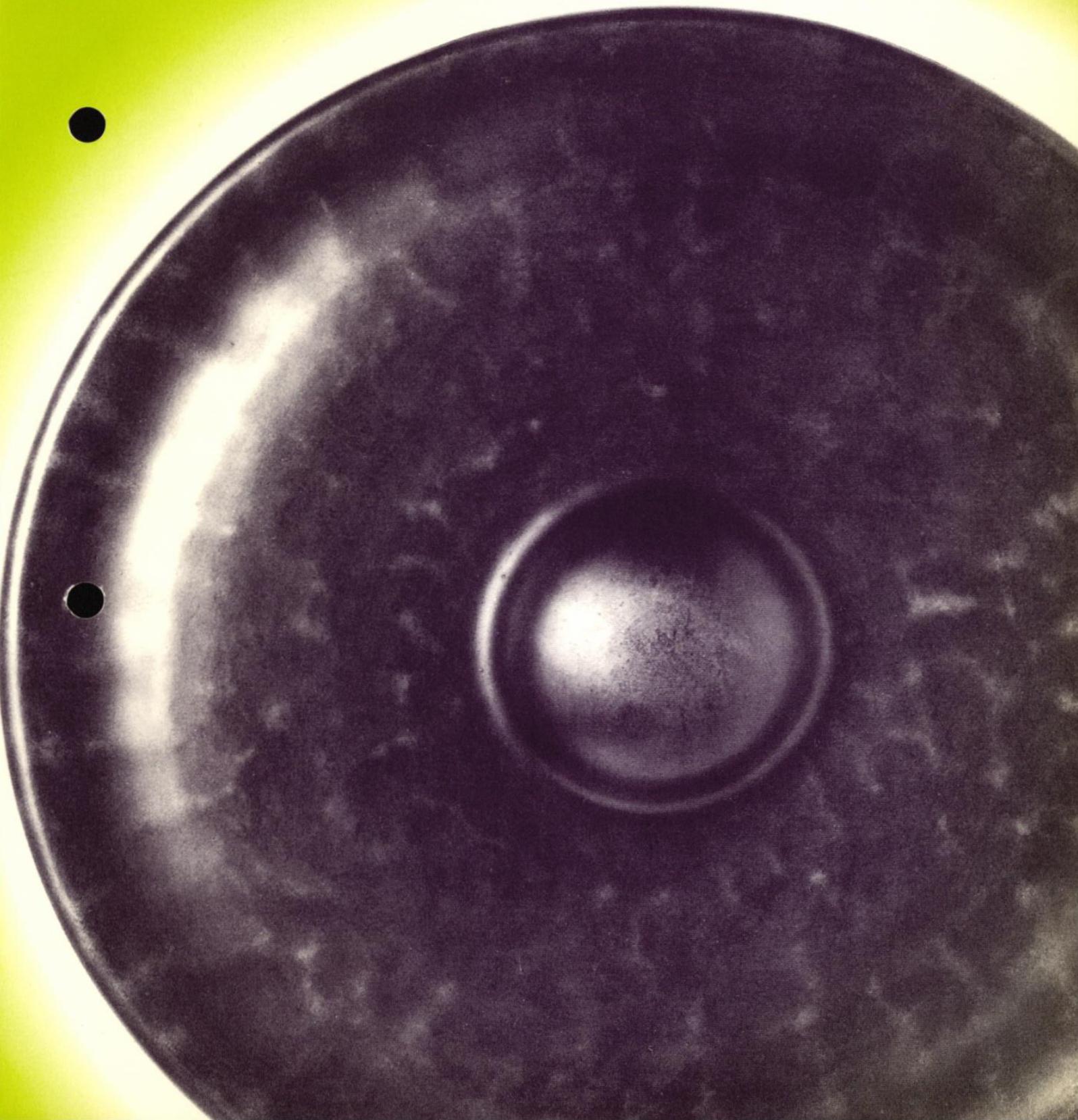


ROTARY CLUB OF **KANAZAWA-NORTH**

1996年5月23日 第560号



金澤北ロータリークラブ



「言葉と私」

渡邊 聡



ロータリーに入会して「すごいなあ」と驚いた事柄が沢山あります。その中で特に何時も感心する事は、会員各位の話し方の旨さです。まず、言葉（単語）を非常に多く知っていること、その言葉の意味を良く理解していること、そして話の要点で旨く適切に使われるため非常に分かりやすいこと、話の組み立て方が上手で聞き手をそらさないこと、なお且つ話し方がソフトで楽しく聞けること等々、どうしてこんなに旨いのだろうかと驚き、感心し、また尊敬の念すら覚えます。

私はスピーチを、苦手中の苦手としています。言葉は、意思を伝える一番便利な道具ですが、私はこの道具を使うことが下手で自分の想いを旨く伝えることができず、つつい話口調が熱っぽく詰問調になり誤解される事がしばしばです。自分では言葉の意味もある程度理解し、単語の種類も少しは知っているつもりですが、それを肝心かなめな時に旨く使えないため自分の気持ちが相手に伝わらず、後になって“あの時、こんな風に言えば良かった”と悔やむこととなります。やはり、根本的に話術が下手なのだなあと自分自身が情けなくなることがまま有ります。

話し方が下手なのは、私の根本的な能力に帰することなので頭が悪いんだと思ってしまえば簡単で良いのですが、その外にも下手の要因が幾つかあると思います。その中の一つと考えられる事は、私の幼・少・青年期に於ける言葉の環境と今日までの仕事の中に有ると思っています。

私は、金沢の上野本町（現在の小立野1丁目・金沢大学工学部のすぐ横）で生まれました。私の祖父も父も、本職は南画の絵書きで祖父の雅号は“竹村”・父の雅号は“錦城”と云い掛軸や襖絵を書いて生活をしていましたが、戦争のため父は警察官（国家警察）になって兵庫県へ赴任したので、家族と共に生後3～4ヵ月の私も神戸の長田区へ移住しました。私の兄は、昨年の阪神大震災の中でも一番ひどかった長田区で、被災者の避難場所となった千歳小学校へ通っていました。戦争が一段と激しくなり京阪神工業地帯へ毎日毎夜の空襲のため足手まといになる幼い私は、昭和19年に母親の里で祖母が住む富山県新湊市へ一人で疎開させられ、神戸弁が富山弁が入り、また昭和20年に故郷の金沢に帰って金沢弁と3都市の言葉が交じり、何とも奇妙なアクセントであったらしいのです。それで、行く先々で子供からも大人からも言葉がおかしいとからかわれ、その土地の言葉に合わず事に汲々とした苦い思い出が今も残っています。

それから、小・中・高校と金沢で過ごし地元の繊維会社に就職し翌年の昭和34年（19才）、東京へ転勤して大失敗？をやらかしたのです。社用で、帝人(株)の事務所へ使いに行った時であったと記憶しているが“毎度さあん〜”と大声で、しかも金沢弁丸出しで案内を請うた時、その部屋には40～50人程の人が居り、電話などでザワザワしていたオフィスに一瞬、宇宙空間のような静寂とそれに続いて津波のような笑い声が私に追い被さってきたのです。私の頭の中に花火が上がり、背筋にはピリピリする悪寒と冷たい水が流れ、何がどうなったのか今も覚えてはいません。ただ、使いだけは何とか無事に果たしたらしいことは確かです。しかし、それ以後この事がその会社で私を一躍有名人にさせ、顔を覚えられ可愛がられたことを思えば大きなプラスであったようです。

東京に4年、金沢に帰り今度は福井弁に悩まされ昭和39年より5年間、羽咋市にある工場勤務、ここでまた岩手弁・秋田弁に奥能登弁と集団就職した子供達や地元の下請け傘下工場の人達の方言との戦い。これに加え、延岡市から倉敷市から頻繁に来訪する原系メーカーの技術者との交流で九州弁・岡山弁と方言の洪水に襲われた。

この様な経験が、いつの間にか私の言葉を混血にしまい子供の頃にかからかわれた苦い思いから、変なアクセントで話してはいないかと、つつい身構えてしまいスピーチを苦手にさせたと思っています。今も、私が少しでも改まった話をしようとするとき、自分の意思に反して体が自然と硬直してしまい言葉がでない、と云う悪い癖がついたと思うのです。

もう一つの要因は、私の職業から来るものがあるように思います。

他の職業の人達と大きく違うことは、私達が接する顧客の大部分はその道のプロで相当の知識と経験があると云うことです。しかたがって、一般の小売顧客や小売卸売業の仕入担当者に接する時のような柔らかな話し方とサービス接待やお世辞はあまり必要ではありません。ただ、お互いに楽しく結果として効率の良い仕事ができれば「グー」なわけです。ですから私達のサービスとは、ほどよい迅速性・業界の的確な情報・業務の正確さ・そして取引の安全性等です。

また、普段の仕事の中で大切なことは「イエス・ノー」を明確にすること、口約束を守り確実に履行することであり、これが私達の契約書なのです。何かトラブルが発生した場合には、紙に書いた契約は法的にも確で必要ですが、銀行や役所のような仰々しい取引契約書はあまり重要視しません。それは、約束事を無視したり守らないときは信頼と信用を失い、それ以後の商いが出来なくなって社会的に罰を受けることになるからです。今の政治家や役人は、これを手本にして貰いたいほどの厳しい制裁を受けます。ロータリーの職業奉仕で云う「奉仕」とは、この「信頼・信用」すなわちモラルにあると私は考えています。

このような中で永く生きると、その口調が「ダメ・ストップ・分かった・分からない・やろう・止めた・行く・行かない」など自然と断定的で、はっきりした物言いと行動になり、どちらとも受け取れる中庸的な話し方や根回しが下手になり、一般の人達から見ると高圧的で強いとの印象を与え、誤解される元になっているものと思いますが、なかなか直すことができず困っています。

ですから、私がロータリーへ入会して良かったなあと感じるものの一つには、冒頭で述べたように会員各位の上手な話術を学ぶ機会に恵まれたと云うことです。これからも会員各位の優れた点を大いに学び取って行こうと思っておりますので、よろしくお願ひします。

穴水ロータリークラブの国際ロータリー 加盟認証状伝達式に参加して

96年5月12日のとふれあい文化センターにて、午後1時半より、式典がおこなわれた。

クラブの概況は

創 立	95年4月2日	例 会 場	のとふれあい文化センター
認 証	95年5月4日	会 員 構 成	96.5.12現在 大正生 男2名 昭和生 男32名・女5名 平均年齢 53才
認 証 状 伝 達 式	96年5月12日	事 務 局	鳳至郡穴水町字此木3-17 鳥越ビル2F TEL・FAX 0768-52-3633
スポンサークラブ	輪島RCと門前RC	理 事 役 員	会 長 鳥越幸平 会長エレクト 山下 惺 副会長 山下 惺 幹 事 蔵野重夫 会 計 鳥越光雄 S A 井上 勇 理 事 吉村多作、竹中 登、木場正彦、諸谷貞雄
特別代表	室本 将利(輪島RC)	創 立 会 員	28名
区 分	第2610地区第4分区		
創立順位	国際ロータリー 30743位 地区 85位 分区 6位		

創立記念品として、穴水町には環境保全の看板、警察署には交通安全のための教育用ダミー人形、地区ロータリーには韓国国旗が贈呈された。

記念講演として東四柳明史氏(石川県立図書館史料編纂室次長 穴水町長谷部神社宮司)の「風雲の穴水城—北陸戦国史の風景」と題した上杉謙信 織田信長 の時代のドラマの中の穴水城の稲妻を切ったという名刀と秀吉、家康にまつわる話、坂本穴水町長は「人口はかつての19400から12800に減少している観光の町としてロータリークラブの活力に期待したい」から祝辞を述べた。



会員に女性が5名いるのが印象的、また登録参加者は金沢7RCで14名と少なかったのに対して、高岡は27名、富山18名、第3・4分区には30—60名の登録クラブもあって、金沢勢としては少ないと思った。

出席者

石丸会長、山上副会長、越田幹事、マツト君の4名

